

# がん治療の今

■■■20

好発年齢は60歳

膀胱は骨盤の中にある。尿を二時的にためる袋です。腎臓で作られた尿は、腎臓の中央にある

膀胱がんのリスクを高める喫煙。膀胱が常に高濃度の発がん物質にさらされるのが一因とされている

## 膀胱がん

腎盂に集まり、尿管を経由して膀胱に運ばれ、尿道を通じて排出されま

ます。肺から吸収された発がん物質が、濃縮されて尿に排出されますので、喫煙者の膀胱は、常に高濃度の発がん物質にさらされています。

膀胱がんには「表在性がん」「浸潤性がん」「上皮内がん」の3タイプがあります。

表在性がんは、膀胱の内腔に向かってカリフラ

がん細胞が広がるタイプです。他のがん種では、上皮内がんは早期のイメージですが、膀胱では悪性度が高く、しっかりと治療が必要で

初発症状の多くは、排尿痛を伴わない肉眼的血尿が見られます。また、膀胱鏡は、膀胱がんの検査として最も有用です。尿道から膀胱に向かって

尿細胞診検査も行います。また、診断と治療を兼ねた経尿道的膀胱腫瘍切除術も行います。尿道から内視鏡を入れて行いますが、5日間程度入院しますが、これによって、膀胱がんの悪性度や根の深さが分かり、次に行うべき治療法が決まっています。

手術が同時に行われます。尿は腹壁から出るようになるので、パウチと呼ばれる袋を貼って生活します。手術前後には抗がん剤の点滴投与も行います。ただ、膀胱全摘除術は侵襲が大きく、超高齢者や全身状態の悪い人にはできません。その場合は対症療法となります。

# リスク数倍高める喫煙



す。膀胱の内壁は、尿路上皮と呼ばれる粘膜で覆われており、この尿路上皮が、がん化したのが膀胱がんです。好発年齢は60歳以上で、男性は女性の4倍の罹患率です。喫煙は、膀胱がんのリスクを数倍高め

ワーカーに発育し、根は浅く粘膜内に留まるタイプです。がんが膀胱の外に広がることはあまりなく、きちんと治療して、経過観察を受けていれば、命に関わることはまずありません。浸潤性がんは、根が深く膀胱の筋肉の層に達したがるので、膀胱の外に浸潤したり、転移を起したりします。予後の良くないタイプです。上皮内がんは腫瘍を作らず、粘膜面に沿って、

細く柔らかい内視鏡を入れて膀胱内を観察します。検査は数分間で終わります。

### 即刻禁煙お勧め

血尿で来院した患者さんには多くの場合、いきなり膀胱鏡は行わず、腹部超音波やコンピュータ断層撮影(CT)で、腫瘍の有無を確認します。尿中のがん細胞を調べる

表在性がんは多くの場合、抗がん剤の膀胱内注入療法を、週1、2回の通院で計6回程度行います。大きな副作用はありませんが、再発の可能性が50%程度あり、定期的な膀胱鏡で検査します。再発時は経尿道的膀胱腫瘍切除術を行います。浸潤性がんでは、膀胱全摘除術を行います。通常は、回腸導管といった

膀胱がんの予防法は、とにかく禁煙です。禁煙しないと、がんの再発進行も増加します。たばこは多くのがん種を誘発するだけでなく、心血管疾患などの危険を著しく高めますので、即刻禁煙をお勧めします。

製鉄記念室蘭病院・立木仁泌尿器科長